



## 【インマヌエルとして来られた救い主イエス】

聖書本文: マタイの福音書1章18-25節・イザヤ書9章6-7節

説教: 鄭南哲牧師  
(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! メリークリスマス! クリスマスおめでとうございます! インマヌエルの主のイエスキリストの祝福と平安が皆様のご家庭、人生の上に豊かに注がれますように切にお祈り申し上げます! メリーは「喜んで」意味で、クリスマスの意味はクリス(キリスト)+マス(礼拝: 拝する)、X-masのXもギリシャ語で「キリストス(Xristos: キリスト)」の意味であるので、この世に我々を救う為にお生まれになったイエスキリストを喜んで迎え入れ礼拝する日であることをその言葉の意味自体が知らせてくれています。

**「見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。(訳すと、神は私たちとともにおられる。という意味である。)その名をイエスとつけなさい。」**するとクリスマスの真の意味は何ですか。愛です。**「神は、実にそのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。(ヨハネ 3:16)」** 神様は御自分のひとり子をとおして神の極致の愛を表してくださった日なのです。

## 『①今日のクリスマスに注目を浴びているもの』

しかし、この世のクリスマスはますます形だけ残り、遊び中心の文化に変わっていくのです。救世軍の創始者であるウィリアムブーツ先生は「いつの間にか、イエス抜きでクリスマス。十字架なしのキリスト教を信じる日がやってくるだろう。」と言われましたが、それが当てはまってきているようです。クリスマスが近づいて来ると素早くクリスマスを知らせるところは教会ではなくデパートであり、居酒屋であり、郵便局などです。クリスマスとは何の意味も、関係もなく 商売の策略(さくりゃく)ためクリスマスの形だけが知らされて来ているのをみなさんも実感しているのではないのでしょうか。みなさん! クリスマスと言われると何を思い出しますか。クリスマスと言われると思えばいくつかがあります。

一つは「クリスマスツリー」です。毎年12月になるとかならずツリーが登場します。すると、「あー! クリスマスが近づいているんだな。」と思わされます。まわりにも、町のどこにも、今年も間違いなく、駅前の広場にもツリーがあがりました。ツリーの起源を探してみると8世紀イギリスの「フォニフェイス」という宣教師がドイツのある地方に宣教師として入りましたが、その町の地域の神々である「オディン」に毎年カシワの木に拝みながらいけにえをささげているその町の人々を見て、それを禁じさせるために考えたすえ、いけにえより代わりにクリスマス時期にモミの木に主にささげるプレゼントをぶら下げることを進めることからクリスマスツリーが始まったそうです。それが16世紀に入ってドイツのルータル先生がモミの木を室内に持ってきてそこにあかりをつけ、様々なプレゼントをぶら下げたことが流行りになって今日のようなクリスマス飾りのツリーに伝わって来ています。

また、クリスマスになると、「サンタクロース」おじいちゃんも思い浮かべるでしょう。小さい子供たちにはこのサンタの存在がとっても大きいですね。親がプレゼントを買っておいてそれをサンタさんがもって来てくれたと言います。それで、子供たちに夢を与え、クリスマスに対する期待を植えさせています。ある子供は本当にサンタさんがプレゼントしてくれていると思っていて、遊んでいたおもちゃが壊れると放送局に電話して「何でサンタさんは壊れたおもちゃをくれたのか」と訴えた場合もあったそうです。これほど子供たちは純真です。

しかし、実は「サンタクロース」は伝説の人物でしょう。我々が言っているサンタクロースとして知られている人物は紀元後270年むかしのトルコの港町だったパターラーで生まれ343年12月6日に死んだ「セントニコラス」という人です。この人は慈善をよく施していた人として知られています。その方の実話の中でこのような話があります。ある結婚適齢期になっている「三人の姉妹」にお金がなかったため町の遊女として売られなければならないことを知って、金が入った袋三つをこっそり置いて来ました。それがきっかけで今日のプレゼントの入ったサンタの靴下のようなようになったそうです。セントニコラスがサンタクロースになったのはいろんな国を航海(こうかい)していたオランダの船員たちによって伝わる過程でオランダの発音で「シンテルクラス」に変わって、サンタクロースになったそうです。ここでサンタクロースが良いプレゼントをくれる存在になったのです。そしてオランダのお母さんたちは子供たちに伝説を作って話をちゃんと聞いて、ほめられた子供たちに「サンタおじいちゃんがプレゼントをくれるよ」という楽しみを与えたそうです。これがサンタの由来です。実に今日の赤いクリスマスサンターのキャラクターはアメリカのコカ・コーラ会社が商売のため1931年作ったものです。

ヘドン・サンドブロム(Haddon Sundblom)がデザインし、書き出した今のサンタクロースにもっと興奮し、人気を浴びて来ながら、いつの間にか世間の人々はイエスキリストより、コカ・コーラ社が作り上げたサンタさんが真のクリスマスの主人公であられるように信じ込んで、真の主人公なるイエスキリストにほとんど無関心ではないのが現実でしょう。みなさんも既にご存知のように、クリスマスは単なる西洋の年末祭りみたいな大騒ぎのフェスティバルではありません。

アメリカである小学校で学生40人にアンケートを聞きました。多くの学生たちが「クリスマスツリー、サンタクロース、キャロル、カード」などを書きました。ところが「イエス様の誕生日」だと答えた学生は一人もいなかったようです。このように今日のクリスマスは商売のため、快楽に促されてしまい、その本質がにごってしまいました。ジョン・デイビット(John David)という人は二つのクリスマスがあると言いました。一つはキリスト信者たちがキリストに真心をもって礼拝するクリスマスであって、もう一つはX-Mas だと言いました。この'X'という記号は本来、キリストの略字

(りゃくじ)ですが、数学用語としては未知数(みちすう)です。多くの人々はクリスマスに X-Mas として守っています。これは何の意味も知らず、自分の欲望を満たす日として守っていることを指摘したのです。我々のイエス様は2022年前にはメシヤとして、キリスト救い主として来られ、いまもなお御言葉と御霊をとおして来られ、やがて再び来られる再臨の主です。

### 『◎預言の通りに成就し、来られた救いの御名イエス・キリスト』

旧約聖書の中多くの人物や預言者たちがメシヤについて預言していましたが、特に、イザヤ預言者はイエス様のお生まれの前B.C. 759年にイエスキリストの降誕についてとても具体的に予言していました。処女がみごもって、男の子を産む。その子は全世界を治め、救うために苦難をせおっているであることを予言しました。例え、**イザヤ書7章14節と9章6-7節**です。「14それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。**見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ**」/9:6**ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。**

**7その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。」**

イエスキリストがお生まれになる前の紀元前750年頃、ミカ預言者も、そのメシヤがベツレヘムでお生まれになることまで具体的に預言(**ミカ書5章2節「ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。」**)しました。その肩には世界を治める力のある、その方はみどりごとして来られました。もし、その方がつぎを持って、力と武力(ぶりよく)で巨大な軍事を連れて来られたのであれば、だれもが彼に近づくことは出来たでしょうか。しかし、イエス様はあのエルサレムのお城でもなく、人間世界の宮殿でもありませんでした。ベツレヘムと言う小さい町の馬小屋で生まれました。これは確かに逆説ですね。金持ちでも、貧しいものでも、だれでもその方に訪ねられるように、一番低いところで、みどりごとして我らの救い主が来られたのです。

まず、旧約聖書のイザヤ書9章6節では、**①「ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。」**その御子イエスキリストが我らのために、我らを救う為にお生まれになると言われています。「**きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。(ルカの福音書2章11節)**」そして、お生れになるメシヤの姿を説明しています。その方は大人の姿ではなく、赤ん坊の姿で来られました。イエス・キリストの人性について言っています。主はまことの人間として来られました。人間だからこそ死なれるでしょう。神様は死ぬことができません。イエス様は我々のかわりに十字架の上で死なれるために、この地に来られたのではありませんか。まさしくまことの人間なるイエス様について説明して下さる聖句です。

**②「ひとりの男の子が、私たちに与えられる。」**神様は神様のひとり子を私たちに与えて下さったのです。神様の側からみれるご自分の息子を世に与えて下さったのです。つまり、これは神なるイエス・キリストを表して下さる聖句です(ヨハネの福音書3章16節「**神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**」)

<我らを救うために来られたそのみどりごの名はイエス・キリスト>

御使いはヨセフに、マリアが身ごもっている胎にやどっている命は、聖霊によるものであり、ご自分の民をそのすべての罪から救うためにお生まれになれるお方であることを教えて下さいました。

**\*マタイの福音書1章20-21節「20見よ、主の使いが夢に現われて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。21マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方が、ご自分の民をその罪(的を外す意味)からお救いになるのです。」**

また、野原の羊飼いたちに現れてこう言われました。

**ルカの福音書2章10-11節「御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。きょうダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」**

**\*イエス意味「ご自分の民をその罪からお救いになる」**：イエス様は貧しさや病から救って下さる方ではなく、「罪から救って下さる方」です。人権運動家でも、革命家でもありません。神様と私の間をさえぎっているつみの壁を打ち壊し、取り除くために、来られた神の御子

**\*キリスト(Christ)の意味「メシヤ(ヘブル語)・キリストス(ギリシャ語) “あぶら注がれた方” 意味(キリストの身分と役割)」**旧約時代に油そそれた三つの身分①王(King)②(大)祭司長 (the high priest) ③預言者(Prophet)でした。

ですから、**①イエスキリストは真の王の王(King)であられるお方(すべての権威と力を持って民を守り、すべてを治める統治者であられる「イザヤ9:6-7節の中「主権はその肩にあり・7その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。」」主権がその肩にあると言うのは統治者という意味があります。つまり、イエス様は統治者であり、王の王としてこの世のすべての主権を持っておられるという意味です。イエス様は全宇宙を治める王の王なるお方です。預言者イ**

ザヤはイエス様がこの地に来られる 7 百年前も前に処女がみごもって男の子を産み、その子は全世界を治める主権を持っていると予言しました。なんと驚くべきことでしょうか。主権はその肩にあると言っています。そして、このメシヤなるイエスキリストが宇宙を統治し、世界史と民族史、全歴史を治める主権を持っているという意味です。それだけでなく、個人とすべての民族の運命もこの御子の手にかかっているという意味でもあります。

そして、その方が天と地のすべての主権を持ち、王の王として来られました。「**イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、すべての権威が与えられています。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる。(マタイの福音書 28 章 18、20 節)**」

来られたメシヤイエスキリストは天と地のすべての権威をもっておられ、迎え入れ、受け入れる全ての者といつまでも共におられる神様であられる方です。

ですから、クリスマスというのはイエス・キリストが王の王として来られる事を告知知らせる日であります。その肩に世界を背負い、すべての人類を治めることのできる主権を持っておられるすばらしいお方、その方がみどりごとして来られた日が、まさにクリスマスなのです。

**②イエス・キリストは(大)祭司長 (the high priest) であられる：①神の民を神に導く②民の為罪赦されるようにとりなし・いけにえを献げる③神と民の関係が守られ回復されるように導いて下さいます。**

**③イエス・キリストは預言者 (Prophet) であられる：神の御言葉を持って神の御心を民に伝える、御心通り導きます。**

後で使徒ヨハネはイエスキリストと出会ってこう告白しました。

**ヨハネの福音書1章18節「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」**

**【③我らのためにインマヌエルの救い主としてイエス・キリストはお生まれになりました！】**

創世記3章に罪を犯した人間たちに神様は創世記3章15節に'女の子孫'を送ると言われました。これが旧約の約束ですが、旧約は来られるメシヤへの予言の言葉です。神様はイエス様のお生まれの前 B.C. 759 年にすでにイザヤ預言者をおして予言されました。イザヤ7章14節「**それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。**

**見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を「インマヌエル」と名づける。」**そしてマタイの福音書1章22-23節の「このすべての出来事は、主が預言者を通して言われたことが成就するためであった。「**見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)**」と引用されています。

**わたしたちのうちに来られた神の御子の別の名は、「インマヌエル」です。**

イエスキリストは、約2千年前に遠い異国の地で生きた、決して自分たちとは関係のない方ではありません。

永遠の命を与えるために私たちのもとに来られた救い主神の御子です。全能であり、宇宙よりも偉大なイエスキリストはご自分を信じる者と永遠に共にいてくださいます。その恵みの中に留まる者は、心を尽くしてイエスを愛し、イエスがこの世に来られたことこそ最大の祝福なのです。

**マタイの福音書は、インマヌエルから始まり、インマヌエルで終わります (23 節・28:20「見よ。わたしは世の終わりまであなたがたといつもともにいる。」)** 私たちとともにいるためにこの地に来られた神の御子は、世の終わりまで私たちとともにいると約束してくださいました。わたしたちの人生において最大の祝福は、「神がともにおられる」ことではないでしょうか。

有名な哲学者ソクラテスは40年間、プラトンは50年間、アリストテレスも40年間、自分たちの弟子たちを教えました。しかし、イエス様はたった3年間、弟子たちに教えました。なのに、イエス様の3年間の働きは130年間の古代の偉大な哲学者たちの教えとは比べられないほど人類にその影響は大きかったです。イエス様は一枚の絵も描いたことがありません。しかし、ラパエルとミケランジェロの優秀な絵はイエスキリストから靈感を受けて描かれました。イエス様はたった一行の詩も書かれませんでした。しかし、ダンテとミルトン、そして世界の偉大な詩人たちの数百編の詩がイエス様によって靈感を受けられた書かれました。イエス様は海外に旅行されたこともありません。全世界は今日その方から大きな影響を受けています。イエス様は一冊の本も書いてみませんでしたが、全世界図書館の半分以上の本が直接的に、間接的にその方と関連されています。イエス様はたった一曲も作曲されませんでした。ハイドン、バッハ、ヘンデル、ベートーヴェン、そしてメンデルスゾーンはそれぞれイエス様を賛美するために賛美歌、交響曲(こうきょうきょく)、オラトリオなどで才能をみせてくれました。くすしい御名イエス・キリスト!力の名前、イエスキリストが我々に与えられ、共におられる日がまさにクリスマスなのです。

**【④神より我らとともにおられることが最大の祝福である理由】**

そしてイザヤ預言者はメシヤが我らに与えられ、ともにおられることが我らにどうして最大の祝福であるか

そのイエスキリストの素晴らしい御名(イザヤ9:6)について 4つの約束の表現があらわしています。

**①救い主イエスキリストは我らの不思議助言者(Wonderful counselor)**

英語の聖書はこれを'Wonderful'という単語で翻訳しています。メシヤがこの地上で行なわれるすべてが不思議であり、驚きであると言う意味です。ですから'このみどりごの名前はとっても不思議'という意味です。我々がみどりごイエスの正体と存在について不思議であるという単語しか、ほか説明しようがありません。日本語の表現でも不思議、すばらしいしか表すことができませんが、あまりにも不思議なため人間としては解釈しきれない方という意味です。その方の誕生はまさしく不思議です。御霊をおして女の子孫である少女マリアの体を借りて、お生まれになったその方のご誕生が不思議であり、その方の十字架の死も、後その方の復活もすべてが不思議でした。

イエスキリストは、**不思議な我らの助言者**なるお方です。英語では' Counselor'だと訳されています。助言者と言う意味です。我々がどんな問題でもイエスのもとに持っていけばイエス様はその問題をクリアさせてくださる方です。苦しみを変えて楽しみにさせてくださいます。どんなに暗闇に歩んだとしても光を照らしてくださいます。そして我々が受けた侮辱を変えて我々を高くあげてくださる方がまさしくメシヤです。そうです。イエス様は我々の'助言者'として我々の人生の道を正しく導いて下さる方です。

**詩篇37篇4-5節「主を自らの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。」**、「**そしてわたしは父にお願いすると、父はもうひとりの助け主をお与えてくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにして下さいます(ヨハネ14:16)**」「**主ご自身が「わたしは決してあなたを見放さず、あなたを捨てない」と言われたからです(ヘブル13:5)**」、「**見よ。わたしは、世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。(マタイ28:20)**」、「**(マタイ11:28) すべて、疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。**」

そのイエス・キリストは我々の素晴らしい、不思議な助言者になるお方です。今日の時代はどれだけ相談者を必要としているのでしょうか。世の中、人生の中で不安、むなしさ、孤独のような心の病にかかっている現代人たちに相談にのってくれる人は切実に必要な存在になります。**我々には自分の心、自分の問題を夜通し聞いてくれる相談者、それだけではなく、すべてを解決してくれる相談者が必要なのです。**しかし、我々には叫ぶ広場がありません。さびしいです。追い詰められています。相談者のドアをたたいても根本的な解決策がありません。つまり、現代相談心理学の一番の問題は相談学は発達しましたが、相談学の悩みはどんどん多くなってきています。

## ②救い主イエスキリストは我らの「力ある神(Mighty God)」

その方の力は無限です。水をぶどう酒に変えられることができます。五つのパンと二匹の魚で5千人、2万人ほどの飢えている人々を食べさせることができました。風と嵐をしずませることができます。中風の患者も癒し、目の見えない人、耳の聞こえない人も癒すことができます。悪霊を追い出し、どんな問題でも解決できる方が我々の主イエスキリストです。イエス様は死んだ者を三人も生き返らせました。'会堂管理者であるヤイロの娘、ナインの町のやもめの息子、マリア兄ラザロ'です。死んだ者を生き返らせる力はただいのちの主人であられる全能の神様しかできません。

**「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、すべての権威が与えられています。」(マタイ28:18)**・**「それから、ご自分の郷里に行つて、会堂で人々を教え始められた。すると、彼らは驚いて言った。「この人は、こんな知恵と不思議な力をどこで得たのでしょうか。(マタイの福音書13章54節)**」、「**人々はみな驚いて、互いに論じ合つて言った。「これはどうだ。権威のある、新しい教えではないか。汚れた霊をさえ戒められる。すると従うのだ。(マルコの福音書1章27節)**」

## ③救い主イエスキリストは我らの「永遠の父(Everlasting Father)」

ここで父とは'創造主もしくは主権者'という意味です。その方は永遠な方です。使徒パウロは「**イエスキリストはきのうもきょうも永遠の変わらないお方(ヘブル13:8)**」「**イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも同じです。**」だと言いました。「**まことに、あなたは私たちの父です。たとい、アブラハムが私たちを知らず、イスラエルが私たちを認めなくても、主よ、あなたは、私たちの父です。あなたの御名は、どこしえから私たちの贖い主です(イザヤ書63章16節)**」そうです。永遠に生きておられる父です。父は子供たちの保護者であり、愛で養(やしな)ってください方です。その方は父の愛でいつも我々をつつんでくださいます。我々は弱いです。ですから、時にはつまずきます。愛していると言いながらも、その方を悲しませる時が多くあります。しかし、その方は我々を見捨てることはありません。けっして我々を離れることはありません。どんなに我々がその方から遠く離れたとしても放蕩息子が両手をあげて父の家に戻る時のように、我々も悔い改めながらその方に戻ると、その方は無限の父の愛をもって我々をあたたかく迎え入れて下さいます。

## ④救い主イエスキリストは我らの「平和の君(Everlasting Father)」

イエス様は我々の重荷を負ってください、我々の心に平安で満たして下さいます。この世の何よりも、だれからも与えられないまことの平安、つまり、'Shalom'を我々の心に与えて下さいます。その方のみがまことの平安の根源地であり、供給者(きょうきゅうしゃ)です。「**キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし(エペソ人への手紙2章14節)**」、「**神が混乱の神ではなく、平和の神だからです(コリント人への手紙第一14章33節)**」「**ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています(ローマ人への手紙5章1節)**」、「**ヨハネ14章27節「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」**」「**ですから信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています(ローマ書5章1)**」、「**コロサイ人への手紙1章20節「その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物をご自分と和解させてくださったからです。地にあるものも、天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。」**」

**「6何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。7そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます(ピリピ人への手紙4章6節-7節)**」

そうです。クリスマスは平和の主が我らに与えられた日です。

クリスマスを迎える世界の人々は心の平安、家庭の平安、世界の平和を切に求めています。私たちもそうではないでしょうか。神様は人類の一番切実な願いは平安であり、平和であることをご存知でした。そういうわけでひとり子イエスキリストをこの世に送ったのです。しずかな夜空で天使たちが叫んだように、イエスキリストがこの地に来られたのは**“天には栄光、地には御心にかなう人々平和が”** そのものだったのです。2022年が過ぎたいまでも全人類にイエスキリストの到来は一番の喜びの良いお知らせとなっています。

イザヤはお生まれになり、我らと共におられるインマヌエルの主イエスキリストを**‘平和の君’**と言いました。ですから、平和の王が生まれた日なので、あらゆる争いをやめなければなりません。憎む心を捨てなければなりません。それで、家庭が平和で、教会が平和で、職場が平和で、社会が平和でなければなりません。イエスキリストは我らのまことの平和を作る**‘まことのピースメーカー’**なるお方です。

みなさん！ひとりの子が我々に与えられ、今もともにおられます！そのみどりごは神様が私たちのために与えられた神のひとり子です。神の御子我らの救い主なるイエスキリストが今も我々に語ってくださっています。

**「疲れた人、重荷を負っている人はみなわたしに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげよう。」**

我々のすべての重荷をメシヤとして来られたイエスキリストにおおしましよ。インマヌエルとして来られたイエス様は私たちと永遠にともにおられます。みなさん、この世にあるものすべてはいつか我々から離れていきます。我々のまわりの愛する人々も、親も、兄弟も、妻も、夫も、子供たちも、友達も、そしてお金も、権力もいつかはみな我々から離れて行きます。

愛する信仰の家族みなさん！我々と永遠にともにおられる方がいます。それはイエスキリストです。我々がこのクリスマス喜び、お祝いする理由がここにあるのです。私たちがこの世を離れる時までそして永遠に私とともにおられるそのイエス様が私の主として来られた日がクリスマスなのです。インマヌエルの主！我々にいのちがあるかぎり、いや、永遠にともにおられる神！ですから、クリスマスには希望があります。愛するみなさん！この一年どんなにつらいことがあっても、このクリスマスからやり直せることができます！

だれでもイエス様を信じれば救われ、日々の歩みの中でわたしとともにおられる神様を経験することが今からでも出来ます。これがクリスマスに人類与えられた**「インマヌエル」**の祝福だと言えるでしょう。

神様はいつもともにいると約束してくださいましたが、神様がみなさんと共におられることを実際最近経験して来ているのでしょうか。もしともにおられないと思ったことがあるなら、それはいつですか。

2022年今年最後の主日を何とクリスマスを迎えながら、私たちを罪から救うためにこの地に来られ、私たちと永遠にともにいると約束して下さったイエスキリストの尊い御名を賛美し、感謝をささげましょう。だれも解決できない罪の問題を代わりに解決して下さった主の愛を心に刻み、愛が必要なところに主の愛を伝えながら生きて行くことができますように！とこしえまでもともにいると約束して下さったインマヌエルの祝福を覚え、今日からもう一度新たに日々キリストにあって歩み、キリストとともに歩みながら、御国の希望を抱いて生きていく愛するクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族となりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます！アーメン！

### 『関連聖句』

#### <ヨハネの福音書3章15節-18節>

「3:15 それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」16 神は、実に、そのひとり子をお与えにえになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。:18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。」

#### <エペソ人への手紙2章3節—9節>

「:3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。:4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛して下さったその大きな愛のゆえに、:5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。:6 キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。:7 それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜る慈愛によって明らかにお示しになるためでした。:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。:9 行いによるものではありません。だれも誇るものがないためです。」

